

実践的指導力育成のための学びの航跡

教職実践ポートフォリオ

(第2版)



コース 幼児教育コース

学生番号

氏 名

『教職実践ポートフォリオ』とは

教員免許の取得を目指す皆さん。そして、教員として子どもたちの幸せのために働こうと考えている皆さん。

「ポートフォリオ (portfolio)」は、もともと書類や作品を入れるファイルという意味ですが、教育分野では「自分のこれまでの学びの成果をファイルしたもの」という意味で使われています。

『教職実践ポートフォリオ』は、皆さんが1年次から4年次の教育実習において、自らの実践的指導力を大切に育んできた学びの航跡です。実習において身につけた力は、「学習指導力」「生徒指導力」「コーディネート力」「マネジメント力」の4つの力で評価しています。

『教職実践ポートフォリオ』は、4年次に開講される「教職実践演習」で、自らのデータファイルである履修カルテとして活用します。

『教職実践ポートフォリオ』が、皆さんの確かな実践的指導力を育成する上での羅針盤となり、豊かな学びの航海日誌となることを願っています。

I 岡山大学教育学部の教員養成コア・カリキュラム

1 教員養成コア・カリキュラムの構造

岡山大学教育学部では、平成 18 年度から、より実践的な指導力を身につけた教員を養成するために、教育実習・体験的授業科目を軸（コア）にした「教員養成コア・カリキュラム」を開発して取り組んできました。教員養成コア・カリキュラムは、次の 4 つの力で構成された教育実践力を獲得し形成することを目標としています。

- ① 学習指導力
- ② 生徒指導力
- ③ コーディネート力
- ④ マネジメント力

これらの 4 つの力について、大学での各授業科目でその理論を学ぶとともに、学んだ理論を生かして教育現場で実習することで、実践的指導力を育成します。そのために、1 年次から 4 年次にわたる教育現場での教育実習を位置付けています。

平成 22 年度入学生から必修化される「教職実践演習」の導入にともない、教員養成コア・カリキュラムを改訂して「教員養成コア・カリキュラム Ver. 2」としてさらに充実をはかりました。

教員養成コア・カリキュラムでは、教育学部の 4 年間を 5 つの期に分け、それぞれの時期のねらいを明確にし、その期にふさわしい授業科目を配置し、教育実習・体験的授業科目と連動させています。

表 1 各期のねらいと教育実習で身につけたい力

学年	期	ねらい	教育実習で身につけたい力
1 年次(前)	教職への意欲向上期	保育実践の世界に誘い、教職に対する夢と希望をさらにふくらませる	教職への意欲 子どもの発達段階の理解
1 年次(後)	教職実践理解期	保育実践の諸構成要素および実践に関する知識理解をふくらませ、保育実践観を拡張する	子ども理解の拡張・深化 ノーマライゼーションの基礎
2 年次(前)			
2 年次(後)	基礎的教育実践力養成期	基礎的教育実践力を身につけ、多様な教育実践を経験する中でそれを高める	保育指導、環境構成、学級経営 保護者との連携協力の基礎
3 年次(前)			
3 年次(後)	発展的教育実践力養成期	保育実践をめぐる新しい課題について理解し、学校現場における自らの実践をふりかえり、教育実践力を高める	実践的指導力の統合・深化
4 年次(前)			
4 年次(後)	採用前研修期	保育実践を研究する力量及び即実践力としての教育実践力を高める	

教育実習・体験的授業科目には、学校で実習する 1 年次から 4 年次までの「教育実習」と、学校支援ボランティアなど学校内外において多様な体験をつむ「フィールドチャレンジ」を開設しています。あらゆる機会を捉えて積極的に教育現場で学び、学びを振り返って次に生かすプロセスが、皆さんを大きく育ててくれるでしょう。

表2 教員養成コア・カリキュラムの履修モデル（小学校教育コース）

学年		1 年		2 年		3 年		4 年	
期		教職への 意欲向上期	教育実践理解期	基礎的教育実践力養成期		発展的教育実践力養成期		採用前研修期	
授 業 科 目	コーディネート力	教育の制度と社会		【教育社会学・教育法制論・ 生涯学習社会論・教育経営学】					
	マネジメント力	教職論	【学校教育実践学】		【教職とマネジメント】				
	実践的指導力	フィールドチャレンジ（学校支援ボランティア等体験的授業科目）							
	附属学校外					教育実習Ⅱ（小学校教育実習基礎研究）		教職実践インターンシップ	
	附属学校	教育実習Ⅰ（観察・参加実習）				教育実習Ⅲ （附属小学校実習）			
	学習指導力		各教科の指導法（授業研究）			教科の指導法開発		教職実践演習 卒業研究	
			各教科の内容研究			教科の内容開発			
			カリキュラム論						
						【情報メディアの授業活用】			
	生徒指導力	学校と教育 の歴史		教育の方法と技術					
				外国語活動の指導法					
				【教育哲学・日本教育史・ 西洋教育史】					
		学校教育心理 学	【発達心理学A・ 発達心理学B・ 発達心理学C】	生徒指導論Ⅰ		【生徒指導論 ⅡA・教育相 談論A】			
				特別活動論					
						道徳教育論			
						発達障害教育概論			

注：【 】は選択必修科目

2 教育実践力を構成する4つの力

岡山大学教育学部では、「学習指導力」「生徒指導力」「コーディネート力」「マネジメント力」の4つの力で構成される教育実践力をバランスよく身につけた反省的で創造的な教員養成を目指しています。幼児教育コースでは、幼稚園教諭の教育実践力を構成する力を「子ども理解力」「保育実践力」「コーディネート力」「マネジメント力」としています。

この4つの力をバランスよく身につけるために、学年毎の教育実習の前後で、準備状況と達成状況をチェックする「教職実践ポートフォリオ」で評価を行います。

教育実習を行う前に、4つの力をよく理解しておいてください。

(1) 子ども理解力

子どもの人格を完成させていくという学校教育の目的・目標を達成するためには、一人一人の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるような指導が不可欠です。具体的には、子どもの発達に応じた、基本的な生活習慣の実態や人間関係などを理解し、道徳性の芽生えを捉えて、基本的な社会規範やルールを守れるよう指導することが必要です。

教員養成コア・カリキュラムでは、大学における授業科目を通して、子どもの人格発達の過程やその特徴、健全な発達を支援する多様な方法等について系統的に学習・研究します。

教育実習では、子ども理解に関する理論と、幼稚園で行なわれる実践とを往還し、実践的な子ども理解力を身につけることが大切です。

教育実習で習得すべき実践的な子ども理解力は次の4項目です。

① 子どもの発達的特徴を理解する力

子どもの発達的特徴を、心と体、言語・社会性等の発達理論を踏まえて総合的に理解する力

② 子どもの基本的な生活習慣を理解する力

子どもの基本的な生活習慣の実態を理解する力

③ 子どもの遊びを理解する力

子どもの遊びを発達段階や個人特性から理解する力

④ 子どもの人間関係を理解する力

子ども同士の人間関係や道徳性の芽生えを理解する力



(2) 保育実践力

幼稚園教諭として、子どもが遊びを通して学ぶ楽しさを味わい、総合的な体験ができるように、教員は、子どもや子どもを取り巻く環境をより深く理解し、保育を実践する力を身につけていく必要があります。

教員養成コア・カリキュラムでは、大学での授業科目を通して、子どもの心身の発達過程、5領域のねらいや内容、内容の取扱いなどについて、系統的に学習・研究します。

教育実習では、こうして学んできた保育実践力の目標・内容・方法に関する理論と、幼稚園で行なわれる実践とを往還し、子どもの育ちを促す保育実践力を身につけることが大切です。

教育実習で習得すべき保育実践力は、次の4項目です。

- ① **保育内容を理解する力**
5領域の保育内容を理解する力
- ② **保育計画を立案する力**
環境構成等に配慮した保育指導案を立案する力
- ③ **保育を展開する力**
保育指導案に沿いながら、個々の発達に応じた保育を展開する力
- ④ **保育を分析・省察する力**
自他の保育実践を分析し、保育の改善点を発見する力

(3) コーディネート力

学校の自主性、自律性が求められる中であって、これからの教員は保護者や地域と連携・協力し、開かれた学校・学級づくりを一層推進していく必要があります。

学級PTAをはじめとする様々な機会に、保護者や地域の人々のニーズを理解し、連携して教育実践することが求められています。また、「総合的な学習の時間」等の実施にあたっても、地域の人々と共同することが求められています。さらに、児童福祉施設や病院等、子どもや家庭に関わる専門機関と連携していくことも求められています。

教員養成コア・カリキュラムでは、大学における授業科目を通して、学校・家庭・地域社会の連携、学校と専門機関との連携について系統的に学習・研究します。

教育実習では、これまで学んだ学外連携に関する理論と教育現場で行なわれる実践とを往還させ、実践的なコーディネート力の基礎として、人と人、組織と組織それぞれのつながりの実態を学び、様々な人・組織とつながる力を身につけることが大切です。

教育実習で習得すべき実践的なコーディネート力は次の4項目です。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① 連携・協力の現状を理解する力
学校と保護者、地域、専門機関等との連携・協力の現状を理解する力② 保護者、地域とつながる力
来校される保護者や地域の方とコミュニケーションし、つながる力③ 実習校の教職員とつながる力
指導教員をはじめとする実習校の先生方とコミュニケーションし、つながる力④ 教育実習生同士で協働する力
教育実習生同士で学習指導や学級経営等に連携・協力して取り組む力 |
|--|

(4) マネジメント力

今日の学校現場では、それぞれの学校での多様な教育課題に取り組むとともに、「特色ある教育・学校づくり」を推進することが要請され、学校の自律性が求められています。その中で、学校教育目標の達成のためには、教職員が一致協力して、Plan（計画）－ Do（実行）－ Check（評価）－ Action（更新）のマネジメント・サイクルを導入した学校・学級運営をすることが求められています。

教員養成コア・カリキュラムでは、大学における授業科目を通して、学校組織の在り方や学校・学級経営等について系統的に学習・研究します。

教育実習では、これまで学んだ学校・学級経営（マネジメント）に関する理論と、教育現場で行なわれる実践とを往還し、実践的なマネジメント力の基礎として、目標達成のためにどのように人・もの・組織が動いているかといった学校・学級経営の実際を学びます。

また、教員養成コア・カリキュラムでは、学校・学級経営（マネジメント）だけではなく、自分自身をコントロールし、自らを高めていくセルフマネジメントについても学習します。

教育実習で習得すべき実践的なマネジメント力は次の4項目です。

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">① 学級をマネジメントする力
学級目標の実現に向けて、子どもの組織や活動をマネジメントする力② 学年・学校行事をマネジメントする力
学年・学校行事を企画・実施・評価・改善する力③ 学校マネジメントを理解する力
学校内の運営組織、保護者や地域住民の参加や連携のための組織、それらの活動内容等について理解する力 |
|--|



Ⅱ 教育実習カリキュラム

1 教育実習の目的

教育実習の目的は、実践的指導力を育成することにあります。教育実習では、教員養成コア・カリキュラムに沿って教育学部の授業で学んだ教育理論を実践し、実践を分析し、改善点を見付け、また、工夫して実践します。こうした理論と実践との往還による実習体験を通して、「学習指導力」「生徒指導力」「コーディネート力」「マネジメント力」の4つの力で構成される教育実践力をバランスよく育て、総合的な実践的指導力に高めていきます。

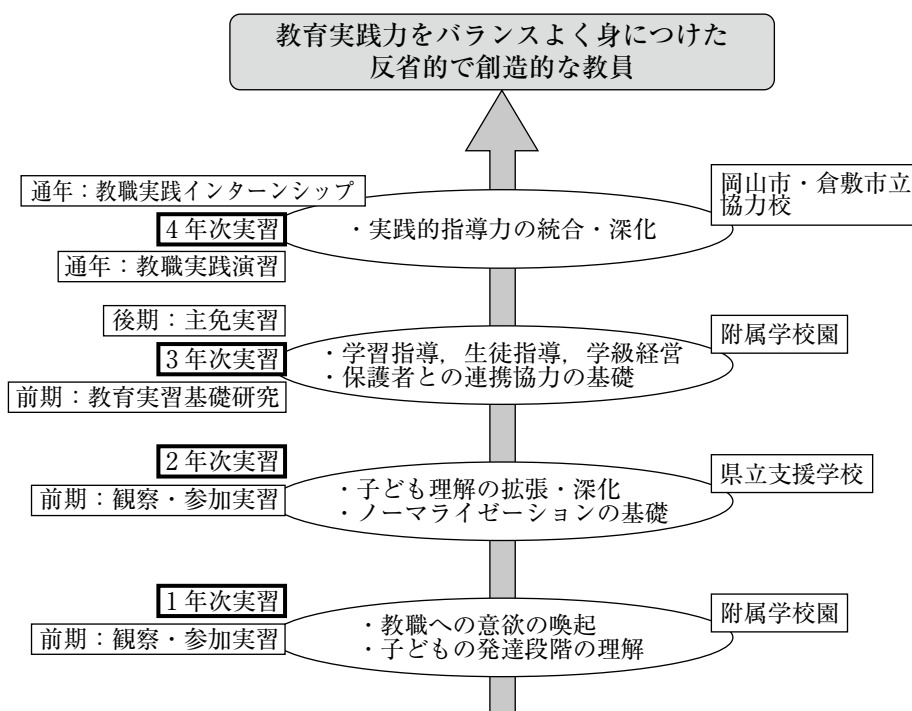
また、これまでの学ぶ側から、指導する側に立つという体験を基に、教職への意欲を喚起し、教育技術を習得するとともに、理論と実践との往還による実践的な取り組みを通して、新たな課題を発見していきます。実践的指導力を身につけるきっかけは、教育実習での課題発見にあるといえます。

2 理論と実践のサイクリックな教師力量形成の学び

教育実習のカリキュラムは、理論と実践とを往還し、漸次、融合を図りながら教育実践力を形成できるようにしています。理論を学び、それを実践し、次いで実践で見いだした課題を解決する意図を持って主体的に理論を学び、更にそれを実践します。こうした理論と実践との往還によるサイクリックな学びにより、大学卒業後教員に採用された当初から、学級を担当しながら教科指導や生徒指導ができるような教育実践力を形成していきます。

3 積み上げ方式による教育実習

教育実習を1年次から4年次まで、継続的・系統的に行います。4年次には「教職実践演習」で教育実践力の形成を確認できるようにします。



Ⅲ 教職実践演習と教職実践ポートフォリオ

1 教職実践演習とは

平成 20 年の教育職員免許法施行規則の改正によって、平成 22 年度入学生から「教職実践演習」が必修化されました。教職実践演習は、この科目を履修するまでの履修科目の状況を踏まえて、身につけた教員として必要な実践的指導力を確認するための科目です（表 3）。

中央教育審議会答申（平成 18 年）において、教職実践演習の到達目標が示されています。教職実践ポートフォリオに基づいて 4 つの力を身につけていくと、この到達目標は達成することができます（表 4）。

2 自らの歩みを確認し、学び合い、育ち続ける専門職

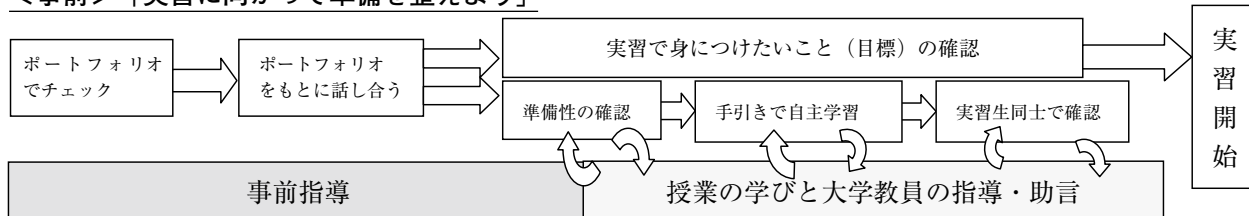
ポートフォリオは、みなさん自身の自己課題を発見し、どんな力を身につけていく必要があるのかを示す「道しるべ」として設定しています。4 年間のあゆみに見通しを持ち、これから自分がどのような力を身につけていく必要があるのかを確認する指標として活用してください。

実習の事前の段階では、ポートフォリオを用いて、準備性を確認します。手引きを活用した自主学習、仲間との話し合い、大学教員への質問や相談等を行いましょう。また実習で身につけたい力の内容と質について自己目標を明確にし、仲間と課題や学びを共有して、実習に臨みましょう。

実習の事後では、実習での経験から自分の得意とすることへの気づきや自己課題を発見します。A B C の判定だけでなく、実習記録等自らの実践をふりかえって分析することで、これまでの課題解決や次の課題発見につながります。一つの自己課題が解決されたとき、また新しい自己課題が出現する。皆さんが実際に学校現場に出た後も、常に自己課題を持ち、このプロセスを繰り返すことになります。判定の良否ではなく、自分の課題と目標を明らかにし、課題解決のための方策をさがす学びのプロセスを経験しているのです。

3 ポートフォリオ活用例

<事前>「実習に向かって準備を整えよう」



<事後>「自己課題を解決するための方策を練ろう」

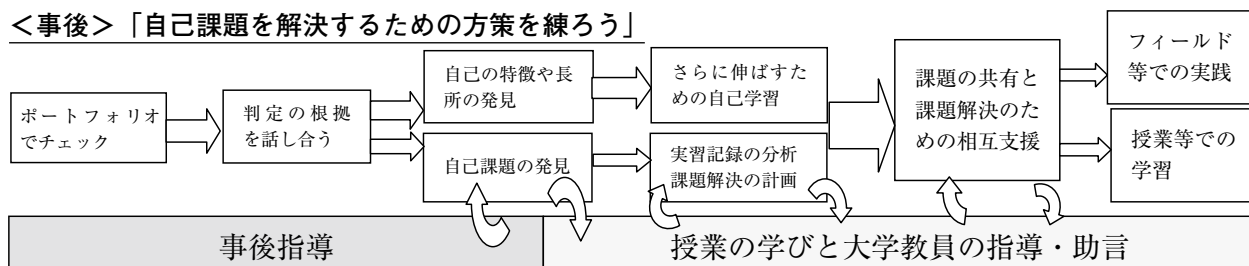


表 3 教職実践演習のシラバス例

授業科目名	教職実践演習(幼稚園)	単位数	2単位	担当教員名		
科 目	教職に関する科目(教職実践演習)					
前期	授業の到達目標及びテーマ 教育実践力を構成する4つの力(「学習指導力」「生徒指導力」「コーディネート力(実習生同士で協働する力、実習校の教職員とつながる力、協力者・連携機関を理解する力、保護者・地域とつながる力)」「マネジメント力」)をバランスよく形成しているかどうかを最終的に確認し、実践的指導力を確実に身につける。					
	授業の概要 「教職実践ポートフォリオ」の行動目標を指標に自己評価・相互評価を行うことで、学生に自分の教育実践力の形成状況を確認させ、自己教育課題を自覚させた上で、学校の教員インターンシップでのフィールドワークを通して経験、学習したことを省察したり共有したりする機会(グループワーク、ワークショップ、ロールプレイング、プレゼンテーション、ケーススタディなど)を提供する。					
	授業計画					
	第1回	「教職実践演習」の目的、意義、授業運営の説明				
	第2回	「教職実践ポートフォリオ」に基づく教育実践力の自己評価・相互評価				
	第3回	自己評価に基づく自己教育課題の認識(ワークショップ)				
	第4回	フィールドワークを基にした発表(学習指導)(プレゼンテーション)				
	第5回	学習指導に関する自己教育課題に基づく授業設計(グループワーク)				
	第6回	指導案の検討(ワークショップ)				
	第7回	指導案に基づく模擬授業(ロールプレイング)				
	第8回	育てたい子ども像と学級経営案の作成・検討(グループワーク)				
	第9回	生徒指導の在り方(ケーススタディ)				
	後期	第10回	フィールドワークを基にした発表(生徒指導)(プレゼンテーション)			
		第11回	園組織における教員(グループワーク)			
		第12回	園と家庭・保護者及び地域との連携(ケーススタディ)			
第13回		他校種(保育所、小学校、特別支援学校)との連携(ケーススタディ)				
第14回		フィールドワークを基にした発表(コーディネート・マネジメント)				
第15回		「教職実践ポートフォリオ」に基づく教育実践力の最終的自己評価				

表4 「教職実践演習」における到達目標及び目標到達の確認指標例と「4つの力」

含めることが必要な事項	到達目標	教育実践力を構成する4つの力	目標到達の確認指標例	「4つの力」の下位項目
①使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項	○教育に対する使命感や情熱を持ち、常に子どもから学び、共に成長しようとする姿勢が身についている。	子ども理解力	○誠実、公平かつ責任感を持って子どもに接し、子どもから学び、共に成長しようとする意識を持って、指導に当たることができるか。	コミュニケーション力
		マネジメント力		専門職マネジメント力
	○高い倫理観と規範意識、困難に立ち向かう強い意志を持ち、自己の職責を果たすことができる。	マネジメント力	○教員の使命や職務についての基本的理解に基づき、自発的、積極的に自己の職責を果たそうとする姿勢を持っているか。	専門職マネジメント力
			○自己の課題を認識し、その解決に向けて、自己研鑽に励むなど、常に学び続けようとする姿勢を持っているか。	専門職マネジメント力
②社会性や対人関係能力に関する事項	○教員としての職責や義務の自覚に基づき、目的や状況に応じた適切な言動をとることができる。	マネジメント力	○挨拶や服装、言葉遣い、他の職員への対応、保護者に対する接し方など、社会人としての基本が身についているか。	セルフマネジメント力
		コーディネート力		実習生協働力
	○組織の一員としての自覚を持ち、他の教職員と協力して職務を遂行することができる。	コーディネート力	○他の教職員の意見やアドバイスを耳を傾けるとともに、理解や協力を得ながら、自らの職務を遂行することができるか。	実習生協働力
		マネジメント力		教職員連携力
	○保護者や地域の関係者と良好な人間関係を築くことができる。	コーディネート力	○学校組織の一員として、独善的にならず、協調性や柔軟性を持って、校務の運営に当たることができるか。	学校マネジメント力
		マネジメント力		教職員連携力
	○子どもに対して公平かつ受容的な態度で接し、豊かな人間的交流を行うことができる。	子ども理解力	○気軽に子どもと顔を合わせたり、相談に乗ったりするなど、親しみを持った態度で接することができるか。	協力者・連携機関理解力
				保護者・地域連携力
③幼児児童生徒理解や学級経営等に関する事項	○子どもの発達や心身の状況に対して、抱える課題を理解し、適切な指導を行うことができる。	子ども理解力	○子どもの声を真摯に受け止め、子どもの健康状態や性格、生育歴等を理解し、公平かつ受容的な態度で接することができるか。	人間関係力
		子ども理解力		発達理解力
	○子どもとの間に信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができる。	保育実践力	○社会状況や時代の変化に伴い生じる新たな課題や子どもの変化を、進んでとらえようとする姿勢を持っているか。	生活習慣理解力
				遊び理解力
	○子どもとのかかわりに信頼関係を築き、学級集団を把握して、規律ある学級経営を行うことができる。	保育実践力	○子どもの特性や心身の状況を把握した上で学級経営案を作成し、それに基づく学級づくりをしようとする姿勢を持っているか。	保育内容理解力
				保育設計力
④教科・保育内容等の指導力に関する事項	○幼稚園教育要領の内容を理解しているなど、指導の基本的事項（5領域の内容など）を身につけている。	保育実践力	○自ら主体的に教材研究を行うとともに、それを活かした指導案を作成することができるか。	学級・学年マネジメント力
			○幼稚園教育要領の内容を十分理解し、保育内容を組み立てたり、子どもの主体的な体験のなかに意味を見出したりするとともに、子どもからの質問に的確にこたえることができるか。	保育設計力
	○話し方、表情、所作など、指導を行う上で基本的な表現力を身につけている。	保育実践力	○所作や、発問、的確な話し方など基本的な保育技術を身につけるとともに子どもの反応を活かしながら、集中力を保った保育を行うことができるか。	保育実践力
				保育の分析・省察力
	○子どもの反応や学びの定着状況に応じて、保育計画や教材、環境構成等を工夫することができる。	保育実践力	○個々の子どもの活動の実態に即して、その体験の意味を深めたり、さらに活動を発展させるためのアイデアを提示したり、保育環境を見直すなど、子どもの学びの定着を図る指導法を工夫することができる。	保育設計力
				保育設計力

中央教育審議会(2006)「今後の教員養成・免許制度の在り方について(答申)」より

積み上げ方式による 教育実習の評価の指標

＜幼稚園教諭の教育実践力を構成する４つの力＞

子ども理解力 ① 子どもの発達的特徴を理解する力 ② 子どもの基本的生活習慣を理解する力 ③ 子どもの遊びを理解する力 ④ 子どもの人間関係を理解する力
保育実践力 ① 保育内容を理解する力 ② 保育計画を立案する力 ③ 保育を展開する力 ④ 保育を分析・省察する力
コーディネート力 ① 連携・協力の現状を理解する力 ② 保護者・地域とつながる力 ③ 実習校の教職員とつながる力 ④ 教育実習生同士で協働する力
マネジメント力 ① 学級をマネジメントする力 ② 学年・学校行事をマネジメントする力 ③ 学校マネジメントを理解する力

1 年次 教育実習（附属 4 校園）の自己評価の指標 【事前の段階】

【評価基準】 A：十分できる B：できる C：概ねできる D：あまりできない

評価の視点と指標	チェック欄
1 子ども理解力	
① 幼児・児童・生徒の発達の特徴を観察する視点を説明することができるか。	
② 現代社会における幼児・児童・生徒の生活実態の特徴について説明することができるか。	
③ 幼児・児童・生徒とのコミュニケーションづくりに意欲を持ち、公平で受容的な態度でかわろうと考えているか。	
④ 幼児・児童・生徒の問題行動にはどのようなものがあるのか、例を挙げて説明することができるか。	
2 保育実践力	
① 幼児・児童・生徒の学習に取り組む様子について、観察する視点を挙げることができるか。	
② 学校種毎の教育課程について年間授業時数や時間割等を理解しているか。	
③ 授業・学習指導の目的・目標を説明することができるか。	
④ 授業を観察し、分析する際の視点について、例を挙げることができるか。	
3 コーディネート力	
① 実習生同士でポートフォリオについて話し合うことができたか。	
② 教職員の職名と主な校務分掌について説明できるか。	
③ 学校の協力者や連携機関を挙げるすることができるか。	
④ 学校への来校者に声をかけることの必要性を理解しているか。	
4 マネジメント力	
① 教員としてふさわしい身だしなみや言動について理解しているか。	
② 知り得た子ども、学級、学校園等の情報について、守秘義務を果たすことの必要性を理解しているか。	
③ 実習校の学級目標や学年目標を理解しているか。	
④ 実習校の学校教育目標を理解しているか。	
【観察・参加実習の課題等】	

1 年次 教育実習（附属 4 校園）の自己評価の指標 【事後の段階】

【評価基準】 A：十分できる B：できる C：概ねできる D：あまりできない

評価の視点と指標	チェック欄
1 子ども理解力	
① 幼児・児童・生徒の発達の特徴について、観察してきたことを説明できるか。	
② 幼児・児童・生徒の生活実態についての特徴を具体的に説明できるか。	
③ 実際に、幼児・児童・生徒と親しみをもって公平な態度でかかわることができたか。	
④ 教師は、子どもの生活をどのように観察し働きかけているか理解することができたか。	
2 保育実践力	
① 実際の授業において、教師がどのように子どもの反応を生かしているか説明できるか。	
② 学校種毎の学習指導・授業設計の違いを説明できるか。	
③ 学校種毎の授業・学習指導の特徴を具体的に説明することができるか。	
④ 授業実践の記録を詳細に取り、教師や幼児・児童・生徒の様子を説明することができるか。	
3 コーディネート力	
① 実習生同士で、子どもとの関わりから学んだことについて話し合うことができたか。	
② 実習校の教員と話した内容を説明できるか。	
③ 来校者の状況について、学校種による違いを説明できるか。	
④ 来校者にあいさつすることができたか。	
4 マネジメント力	
① 教員としてふさわしい態度で実習し、教師になる夢をふくらませることができたか。	
② 教職の職責と魅力、目指す教師像について、語るができるか。	
③ 実際に学級や学年で行っている教師の仕事を観察し、その内容を説明できるか。	
④ 子どもの安全や健康に配慮した学校環境の整備や工夫、それにとまなう教育活動を観察できたか。	
【2 年次実習に向けての課題等】	

2 年次 教育実習（特別支援学校）の自己評価の指標 【事前の段階】

【評価基準】 A：十分できる B：できる C：概ねできる D：あまりできない

評価の視点と指標	チェック欄
1 子ども理解力	
① 個々の子どもの言動を観察する視点について理解しているか。	
② 個々の子どもについて、基本的生活習慣に関わる実態を捉える観点を理解しているか。	
③ 子どものコミュニケーションに関して、どのようなことに配慮したらよいかを説明することができるか。	
④ 個々の子どもの生活指導に関わる課題について、留意点や着目する視点を挙げることができるか。	
2 保育実践力	
① 子どもの学習に取り組む様子を観察する視点について理解しているか。	
② 特別支援学校の授業の目標を理解しているか。	
③ 個々の子どもの実態に応じた指導があることを理解しているか。	
④ 特別支援学校の授業において、工夫されていることを理解しているか。	
3 コーディネート力	
① 実習生同士で、子どもとの関わりについて準備すべきことや配慮が必要なことについて話し合うことができたか。	
② 教職員の連携やその重要性について説明することができるか。	
③ 特別支援学校と保護者や地域との連携・協力についてその特徴を想定することができるか。	
④ 学校と保護者との連携の必要性を説明することができるか。	
4 マネジメント力	
① 実習生が感染予防につとめ、健康に留意して過ごすことの必要性を説明できるか。	
② ノーマライゼーションについて理解し、主体的に子どもから学ぼうとする気持ちをもっているか。	
③ 学級経営案について理解しているか。	
④ 子どもの健康や安全に配慮した学校運営や子どもの人権を守ることにについて説明することができるか。	
【観察・参加実習の課題等】	

2 年次 教育実習（特別支援学校）の自己評価の指標 【事後の段階】

【評価基準】 A：十分できる B：できる C：概ねできる D：あまりできない

評価の視点と指標	チェック欄
1 子ども理解力	
① 特定の子どもについて、観察する観点に従って言動を観察することができたか。	
② 特定の子どもについて、基本的生活習慣に関わる実態を把握し、説明することができるか。	
③ 子どものコミュニケーション実態を観察し、必要な配慮や支援について理解することができたか。	
④ 特定の子どもに対する生活指導上の課題に対して、指導の意図を持って、適切に対応することができたか。	
2 保育実践力	
① 子どもの学習に取り組む様子を、観察の視点に沿って説明できるか。	
② 特別支援学校の授業の目標を説明することができるか。	
③ 特定の子どもの実態に応じた指導について説明することができるか。	
④ 実習校の授業において、工夫されていることを具体的に説明することができるか。	
3 コーディネート力	
① 実習生同士で子どもから学んだことについて話し合い、課題を指摘し、学びを深めることができたか。	
② 教員が特別支援教育について実習生に語った内容を説明することができるか。	
③ 特別支援学校と保護者や地域との連携・協力について観察し、その特徴を説明することができるか。	
④ 学校と保護者が情報交換しながら、日々の子どもの指導に当たっていることを知ることができたか。	
4 マネジメント力	
① 実習期間中に、心身の健康や安全に留意して生活することができたか。	
② 特別支援学校で学んだことを通常学校でどう活用できるか考えたか。	
③ 特別支援学校で行われている学級経営や教育活動の工夫について、具体例を挙げて説明することができるか。	
④ 実習を踏まえ、子どもの健康や安全に配慮した学校運営や、子どもの人権を守るための教師の取り組みについて説明することができるか。	
【3 年次実習に向けての課題等】	

3 年次 教育実習（主免実習）の自己評価の指標

【事前の段階】

【評価基準】 A：十分できる B：できる C：概ねできる D：あまりできない

評価の視点と指標	チェック欄
1 子ども理解力	
① 子どもの発達の特徴を、心と体、言語・社会性等の発達理論を踏まえて総合的に理解することができるか。	
② 子どもの基本的な生活習慣の実態を理解することができるか。	
③ 子どもの遊びを発達段階や個人特性から理解することができるか。	
④ 子ども同士の人間関係や道徳性の芽生えを理解することができるか。	
2 保育実践力	
① 5 領域の保育内容を理解することができるか。	
② 環境構成等に配慮した保育指導案を立案することができるか。	
③ 保育指導案に沿いながら、個々の発達に応じた保育を展開することができるか。	
④ 自他の保育実践を分析し、保育の改善点を発見することができるか。	
3 コーディネート力	
① 実習生同士で、それぞれの目標を確認し、お互いの目標達成のために励まし合うことができたか。	
② 事前訪問において、学級経営、部分・全日指導等について教職員と連携・協力して打ち合わせをすることができるか。	
③ 学校と保護者や地域、専門機関等との連携の課題や、今日的取り組みについて説明することができるか。	
④ 園と保護者や地域との連携・協力について、これまでに理解したことをもとに、その大切さを説明できるか。	
4 マネジメント力	
① 教員としての自覚と自己目標をもち、自信をもって実習に参加することができるか。	
② 学校の説明責任や法令遵守の内容を理解し、その重要性について説明することができるか。	
③ 年間指導計画によって、学級や学年、園行事が実施されていることを理解し、行事の果たす役割を理解し、説明することができるか。	
④ 幼児の健康・安全に配慮した園内環境を整えるための条件について説明することができるか。	
【主免実習に向けての課題等】	
【指導教員のコメント】	

3 年次 教育実習（主免実習）の自己評価の指標

【事後の段階】

【評価基準】 A：十分できる B：できる C：概ねできる D：あまりできない

評価の視点と指標	チェック欄
1 子ども理解力	
① 子どもの発達的特徴を、心と体、言語・社会性等の発達理論を踏まえて総合的に理解することができたか。	
② 子どもの基本的な生活習慣の実態を理解することができたか。	
③ 子どもの遊びを発達段階や個人特性から理解することができたか。	
④ 子ども同士の人間関係や道徳性の芽生えを理解することができたか。	
2 保育実践力	
① 5 領域の保育内容を理解することができたか。	
② 環境構成等に配慮した保育指導案を立案することができたか。	
③ 保育指導案に沿いながら、個々の発達に応じた保育を展開することができたか。	
④ 自他の保育実践を分析し、保育の改善点を発見することができたか。	
3 コーディネート力	
① 実習生同士で課題を共有し、協働して実習することができたか。	
② 学級経営、部分・全日指導等について、教職員と連携・協力して実践することができたか。	
③ 実習校における連携のあり方やその取り組みについて、具体を挙げて説明することができるか。	
④ 園と保護者や地域との連携・協力の大切さを踏まえ、連携・協力が求められる活動に参画することができたか。	
4 マネジメント力	
① 教員としての自覚と自己目標をもち続け、想定外の状況に直面しても冷静に対処できたか。	
② 計画－実践－分析・評価－改善というプロセスを意識して実習できたか。	
③ 学級や学年、園行事の年間指導計画をもとに、それらの役割を考え、進んで企画、実践に参加しようとすることができたか。	
④ 幼児が健康・安全に過ごせるよう園内環境を整えることができたか。	
【4 年次実習に向けての課題等】	
【指導教員のコメント】	

4 年次 教職実践演習（教職実践インターンシップ）の自己評価の指標 【事前の段階】

【評価基準】 A：十分できる B：できる C：概ねできる D：あまりできない

評価の視点と指標	チェック欄
1 子ども理解力	
① 子どもの発達の特徴を、心と体、言語・社会性等の発達理論を踏まえて総合的に理解し、実践に応用することができるか。	
② 子どもの基本的な生活習慣の実態を理解し、実践に応用することができるか。	
③ 子どもの遊びを発達段階や個人特性から理解し、実践に応用することができるか。	
④ 子ども同士の人間関係や道徳性の芽生えを理解し、実践に応用することができるか。	
2 保育実践力	
① 5 領域の保育内容を理解し、実践に応用することができるか。	
② 環境構成等に配慮した保育指導案を立案し、実践に応用することができるか。	
③ 保育指導案に沿いながら、個々の発達に応じた保育を展開し、実践に応用することができるか。	
④ 自他の保育実践を分析し、保育の改善点を発見し、実践に応用することができるか。	
3 コーディネート力	
① 実習生同士で、学級経営、部分・全日指導等の具体的内容について話し合い、実習に向け準備することができたか。	
② 教職員と連携・協力して、学級経営、部分・全日指導等の打ち合わせをすることができるか。	
③ 教育課題や子どもの問題状況に応じた連携・協力機関を挙げることができるか。	
④ 園と保護者や地域と連携・協力して行う活動の内容や計画を把握し、保護者や地域の関係者と接する準備ができているか。	
4 マネジメント力	
① 自己課題を明確にもち、その解決に向けて意欲的に実習に取り組もうとしているか。	
② 教職の専門性について説明し、自らの考えを述べることができるか。	
③ 学年・園行事の意義や役割を考え、それらのねらいや年間指導計画と関連付けて説明することができるか。	
④ 幼児が健康・安全に配慮するために必要な視点と具体的な方法について、例をあげて説明することができるか。	
【学校教員インターンシップに向けての課題等】	

4 年次 教職実践演習（教職実践インターンシップ）の自己評価の指標 【事後の段階】

【評価基準】 A：十分できる B：できる C：概ねできる D：あまりできない

評価の視点と指標	チェック欄
1 子ども理解力	
① 子どもの発達的特徴を、心と体、言語・社会性等の発達理論を踏まえて総合的に理解し、実践に応用することができたか。	
② 子どもの基本的な生活習慣の実態を理解し、実践に応用することができたか。	
③ 子どもの遊びを発達段階や個人特性から理解し、実践に応用することができたか。	
④ 子ども同士の人間関係や道徳性の芽生えを理解し、実践に応用することができたか。	
2 保育実践力	
① 5 領域の保育内容を理解し、実践に応用することができたか。	
② 環境構成等に配慮した保育指導案を立案し、実践に応用することができたか。	
③ 保育指導案に沿いながら、個々の発達に応じた保育を展開し、実践に応用することができたか。	
④ 自他の保育実践を分析し、保育の改善点を発見し、実践に応用することができたか。	
3 コーディネート力	
① 実習生同士で、学級経営、部分・前日指導等について、協働して実践し、省察し合うことができたか。	
② 学級経営、部分・全日指導等について、教職員と積極的に連携・協力して実践することができたか。	
③ 実習校における協力者や専門機関等との連携・協力の現状を理解することができたか。	
④ 園と保護者や、地域との連携・協力を大切にした活動に参加することができたか。	
4 マネジメント力	
① 実習期間中、高い意欲と課題意識をもち続けることができたか。	
② 実習で学んだことを今後どういかに、発展させていくべきか説明することができるか。	
③ 学年・園行事の意義役割を考え、進んで企画実践に参加しようとすることができたか。	
④ 幼児の健康・安全に気をつけ、園内の環境整備等に適切に取り組むことができたか。	
【新採用教員としての抱負・自己の課題等】	
【指導教員のコメント】	

岡山大学担当教員押印欄

1 年次	2 年次	3 年次	4 年次

教職実践ポートフォリオ（第2版）は、平成21年度文部科学省大学教育推進G P「総合大学が担う特色ある教員養成の質保証」の助成により、全学教職課程G Pプロジェクトが、教育実地委員会等の協力を得て、開発しました。

実習前には、このポートフォリオを用いて準備性を確認し、充実した実習にしてください。実習後には、自らの成長や課題を自覚し、教職への意欲を高め、それぞれの教育観を深めてください。

平成22年4月1日

—— 全学教職課程G Pプロジェクト ——

高橋 香代	黒崎 東洋郎	住野 好久
山崎 光洋	笠原 和彦	上村 弘子

—— 教育実地委員会 教育実習関係専門委員会 ——

黒崎 東洋郎	仲矢 明孝	松原 泰通	笠原 和彦
山崎 光洋	小川 潔	山根 文男	桑原 敏典
脇本 恭子	足立 稔	稲田 佳彦	梶谷 信之
門田 新一郎	上村 弘子	田中 喜一郎	永野 直樹
河合 昌恵	門野 仁美	鈴木 薫	柳原 正文

—— 幼児教育講座 ——

高橋 敏之	梶谷 信之	横松 友義	片山 美香
-------	-------	-------	-------

実践的指導力育成のための学びの航跡

教 職 実 践 ポ ー ト フ ォ リ オ（第2版）

（幼児教育コース）

平成22年3月31日

編集：岡山大学教育学部
〒700-8530 岡山市北区津島中3-1-1
TEL 086-252-1111(代)

印刷：昭和印刷株式会社



岡山大学